

平成 27 年度事業報告

1. 法人全般報告

私たちは、法人理念の実践を目指し、平成 27 年度の運営方針の 3 本柱を立てました。

(1) 利用者の力が発揮できる施設作り

- ① 利用者が持てる力を発揮できる機会の提供や工夫
自立支援・重度化予防への支援
- ② 医療と介護の連携による健康管理と重度化予防
口腔・栄養管理の充実
- ③ 利用者が「活動」や「参加」しやすいリハビリと環境づくり
適切な住環境や福祉用具の整備

(2) 地域のニーズに応え、地域の拠点となる施設作り

- ① 地域住民の力が発揮できる場作り
地域サロン、介護予防教室、認知症サポーター研修、いきいき百歳体操、囲碁将棋の日等の実施
- ② 地域通貨 (ZEYO) の取り組み
地域住民との交流の機会となる場作り
- ③ 津波・福祉避難所としての役割
BCP (事業継続計画) 策定と訓練の実施
地域住民との避難訓練の企画
- ④ 住み慣れた地域暮らし続ける為の在宅支援
定期巡回随時対応型訪問介護看護事業や配食サービス、緊急ショート等の支援
専門職種の訪問による助言等の支援
- ⑤ 看取り期の対応の充実
人生の終焉を迎える方に対しては、穏やかで安らかな死の支援ができるよう職員研鑽を行う

(3) やりがいと働きやすい職場作り

- ① 介護の魅力を発信していく
福祉の仕事の楽しさや法人の強みをアピールできる採用戦略を企画する
ソーシャルネットワークを活用した広報活動の充実
- ② 福祉人材の確保と育成
認知症ケア研修等の実施及び、職員のキャリアアップにむけた支援
有給休暇がより取得できる職場環境作りを行う
- ③ 職場の福利厚生の実施
クラブ活動の支援と応援・情報公開を行っていく
互助会活動の充実

2. 具体的な活動状況

(1) 利用者の力が発揮できる施設作り

利用者の自立支援・重度化予防・健康管理・リハビリ・環境づくり等

1) 利用者ケアについての検討会

介護保険の改正により、特に小規模通所介護の在り方について皆で協議する場が必要と考え、ふるさと会通所介護連絡協議会を毎月開催する事にした。

利用者の意欲が向上し、楽しく生活できることを支援するデイサービスを目指し、取り組み活動報告や問題点の検討、利用者の個別ニーズに更に対応する方法等意見交換を行った。

開催月日	会場	参加部署	協議内容
4月10日	健康カフェ とりごえ	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ ピア居宅・福祉企画室	①通所介護の問題点 ②居宅ケアマネから通所介護に望む事等
5月8日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 森の里・福祉企画室	①いの町介護保険課の地域密着サービスについての考え ②高齢者支援センターよこはまから通所介護に望む事
6月12日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 福祉企画室	①実践報告（夕顔：良心市開始等） ②各事業所の弱みを強みに変える ③ケアマネとの信頼関係作りについて
7月10日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 森の里・福祉企画室	①浜ちゃんのサービス内容の協議 ②中追デイの活性化について ③実践報告（夕顔：収穫祭開始等）
8月14日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・ 福祉企画室	①実践報告（浜ちゃん屋外歩行訓練・料理の日開始等） ②中追アート計画について
9月16日	中追	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 福祉企画室	①中追地区を知る（現地開催）木彫り人形の設置②実践報告 ③浜ちゃんの料理教室について
10月9日	Ds 浜ちゃん	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 森の里・福祉企画室	①実践報告 ②Ds 浜ちゃんの屋外歩行コースの検討 ③ZEYO の活用方法について
11月20日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 森の里・福祉企画室・支援センター・森の里居宅	①実践報告（夕顔：ピザ釜完成等） ②ケアマネへの通所介護報告書（利用者の身体状況の評価等）の統一化
12月11日	ヘリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中追・ 森の里・福祉企画室・支援センター・森の里居宅	①実践報告 ②これからの通所介護の方向性について 研修報告（全国老施協大会・日本通所ケア研究大会）③広報について

1月8日	へリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・中迫・福祉企画室	①通所介護報告書の見直し ②浜ちゃんの地域交流について ③中迫地区住民に対しての食事会・意見交換実施等
3月11日	へリオス	こだま・浜ちゃん・夕顔・福祉企画室	①実践報告 ②浜ちゃんロードについて等

2) 利用者をより深く知るための研修会

今年度は、利用者が持てる力を発揮できる機会の提供や工夫ができる事を目標とし、一人ひとりの利用者を深く知るための研修を企画し、神奈川県横浜市から波田野政治氏を招き「認知症ケアのイノベーション」を開催した。 のべ248名の参加

月日	テーマ	参加人数
5月14日(木)	キョウメーションケアの対人援助技術	41名
6月18日(木)	キョウメーションケアの対人援助技術	34
8月27日(木)	認知症ケアに必要な知識	25
9月17日(木)	問題指向型記述方式を使った介護ニーズの把握	26
10月22日(木)	認知症ケアにおけるチームアプローチ	33
11月26日(木)	アセスメントのkey情報と思考の展開方法	31
12月18日(金)	認知症を知る～根拠に基づく認知症ケア	30
1月21日(木)	アセスメントのkey情報と思考の展開方法	28

3) ケア技術向上にむけた研修会の開催

①中重度高齢者が入所している部署では、利用者の重度化を予防し自立支援ができるように、利用者の姿勢管理や移乗動作介助について高知家統一ケアセミナーの受講や、講師派遣、会場の提供を行い、介護職員の他、リハビリ職員、高知市内のリハビリ・看護職員の参加もあった。

②教育委員会主催の研修

のべ637名の参加

月日	研修テーマ	講師	参加人数
5月26日	職場における過重労働とメンタルヘルス	産業医：森木章人 先生	65名
6月15日	感染予防について	感染対策委員会	78
8月17日	摂食・嚥下障害について	ねろ四国：深田貴大 先生	55
9月21日	南海地震に備えて	高知市地域防災課 森澤伸次 先生	74
10月19日	事故防止策を共有しよう～その工夫頂きます～	事故防止委員会	70
11月16日	褥瘡予防・体圧分散を知ろう	褥瘡予防委員会	70
12月9日	認知症について	内田泰史 理事長	79
1月18日	その食事形態ありますか？ 「体験しよう。摂食嚥下と口の動き」	食事サービス委員会	75
2月15日	身体拘束廃止について	身体拘束廃止・虐待防止委員会	71

4) 行事

ふるさと会全体行事として以下の行事の他、各事業所では日常生活の中で外出・ドライブ・畑作業・作品作り・買い物・調理等様々な取り組みを実施した。

月日	行事名	月日	行事名
5月10日(日)	よこせと海辺のにぎわい市	11月7日(土)	中追勝賀瀬秋まつり
8月1日(土)	へリオス納涼祭	11月17日～ 12月2日	利用者作品展
8月22日(土)	すこやかな杜・あじさいの里夏祭り	11月22日(日)	家族交流会
9月6日(日)	風花の里祭り	12月28日(月)	餅つき
9月17日(木)	熟年会	1月12日(火)	新年会
10月18日(日)	へリオス運動会		

(2)地域のニーズに応え、地域の拠点となる施設作り

①主な取り組み(主としてへリオス内)

取り組み内容	予定日	開催日	内容	参加者数
囲碁将棋の日	3か月毎 第3日曜	4月19日 7月19日 10月25日 1月17日	地域の中で閉じこもりがちな男性高齢者や利用者を対象に送迎付きで囲碁や将棋・麻雀等を行っている。参加者にはZEYOを配り、次回からの参加費としている他、他のイベントへの参加を促している。	各30名前後
法律相談会	2か月毎	5月13日 7月19日 9月17日 11月22日 1月17日	細田弁護士による相続問題等の無料の相談会。他のイベントと共催している。	各2～3名
地域清掃	2か月毎 第2火曜日 7:30	5月12日 7月12日 9月8日 11月10日 1月12日 3月8日	施設周辺～横浜地区、宇津野トンネルまでの地域清掃活動を行っている。	各15名前後
利用者作品展	年1回	11月17日～ 12月2日	ふるさと会の利用者の作品の他、地域住民10名程度の方の手芸品等の作品を展示し好評を得ている。外出の機会にもつながっている。	へリオス内外のすべての事業所の利用者 地域住民10名程

いきいき百歳 体操	毎週水曜日 10:45 ~ 11:45	毎週水曜日	地域住民やヘリオス利用者を対象に開催。 毎回 6~7 名の地域住民が参加している。 今年から認知症予防体操の「しゃきしゃき百歳体操」を始め、毎回 10 名程の参加があった。	毎回 30~40 名前後
生きがいファ ームバザー	4 か月毎	6 月 14 日 10 月 25 日 2 月 28 日	地域交流として企画。介護相談会の企画も行い春野高校生のボランティア参加や地域住民の参加が見られた。	各 40 人前後
地域サロン	週 2 回 (てく・と こ・瀬戸)	毎週 2 回 (水・土)	瀬戸東地域で支援センター職員、民生委員、社協職員等と共催。 7 月 12 日には町内会と合同で開催し、グループ内の理学療法士等による介護教室を行った	毎回 10 人程度
たけのこ会 サロン	毎月 第 1 水曜 (ヘリオス)		支援センター職員による開催。 地域高齢者等の集まりを企画し、ボランティア活動や百歳体操、勉強会、外出支援や布ぞうり作り等を開催。今年は新規で 2 名参加があった。	毎回 5 ~ 6 人
防災訓練		7 月 7 日 (火) 9 月 14 日 (月) 11 月 5 日 (木) 2 月 24 日 (水)	火災訓練 地震津波避難訓練 (炊き出し) 地震避難訓練 夜間想定火災訓練	利用者・職員 毎回 100 名 程度

②BCP（事業継続計画）の策定について

高知県主催の BCP 策定支援講座に昨年より 3 名が計 7 回参加して、ヘリオスの BCP 策定を行い、防災並びに減災への取り組みを行った結果、「平成 27 年度高知県南海トラフ地震対策優良取組事業所」として 5 つ星の評価を受け、3 月 18 日認定証交付式に参加した。

(3) やりがいと働きやすい職場作り

1) 介護の魅力を発信していく

ホームページの更新やフェイスブックページを活用し、各事業所のイベントや研修風景等をリアルタイムで発信できた。

2) 福祉人材の確保と育成

①求人活動について

高知県が開催する「福祉就職フェア」にむけて、選抜された若手職員によるプロジェクトを結成し、ふるさと会の強みを考え、若手職員の採用にむけて取り組んだ。

8月16日のフェアでは、求職者にむけたプレゼンテーションを行い、法人紹介ブースでは若者が足を止めて入りやすいブースづくりを行い、フェアでは最多の63名のエントリーがあった。

その後、施設見学会や面接会を行い、「施設に来られる方はすべてお客様」と考えたおもてなしを行った。その結果、約5名の新卒者と2名のパート職員を採用する事ができた。

以後、県社協の福祉人材センターとの関係づくりもでき、介護体験者の受け入れを5名程行った他、求職者の紹介の機会が多くなった。

②人材育成について

職員の育成に関しては、以下の職位別研修や外部研修の組み合わせを行った。

【運営管理職研修】：各部署の施設長・主任・副主任 27人 3回のべ 84名

月日	内容	講師	参加人数
H27年4月25日	課題改善研修1	アビリティセンター 藤原勉氏	28名
6月27日	課題改善研修2	アビリティセンター 藤原勉氏	27名
9月26日	課題改善研修3	アビリティセンター 藤原勉氏	29名

【中堅職員・アクティブ研修】：

今まで行ってきた中堅職員研修の名称を変更し、中堅だけでなく、部署を活性化する目的で対象者の経験年数に関係ない中堅職員の為の研修に変更しグループ全体で取り組んだ。

テーマ「利用者の笑顔を引き出そう」

参加者 21名

日程	形態	内容
6月7日	集合研修	認知症体験研修 現場での活動を振り返ろう
7月26日	集合研修	自部署の特色を活かして、よりよいケアをしよう
7月27日～ 10月9日	職場内での実践	自部署内の課題に取り組む
12月6日(日)	実践報告会	審査員 内田理事長 横浜市の認知症ケア研究所所長・波田野政治氏

【新人研修】参加者：のべ 96名

	月日	内容	講師	のべ
採用時 研修	H27年 4月1~3日	法人理念・接遇マナー・認知症ケア・感染症予防・事故防止等	介護・看護・介護支援専門員 理学療法士等	21名
	H27年4月18日	新人職員コミュニケーション研修	アビリティセンター山崎節子先生	18名

6月13日	心身機能の加齢性変化と日常生活への影響	日本クリエイト 岡 栄美先生	27名
8月8日	自立支援と重度化予防	日本クリエイト 橋本麻里先生	30名

【新人サポーター養成研修】：

新人職員の定着を目標に、現場で新人をサポートする立場にある職員を対象に指導者としての養成研修を行った。

参加者：のべ39名

日程	内容	参加人数	講師
H27年3月28日	人材育成の必要性・具体的なOJT	11名	企画委員
11月14日	よりよい人間関係作り	15名	〃
H28年3月25日	評価・反省	13名	〃

3. 各事業所総括

◆入所サービス部門

●特別養護老人ホーム森の里高知

年間平均稼働率97.7%（前年度97.6%）、入居者の平均介護度4.29（前年度4.2）と前年より介護度、稼働率は微増している。平成25年11月から医師の常勤配置を行っており、入院者は平成26年度は前年より40%減少、今年は25年度と比較すると26%減少の517日であった。

又、退所者は22名で、そのうち施設での看取り希望者は12名であった。新規入所者の介護度は4.14であった。入所者の27.5%が1年以内に入所したことになる。

＜医務部門＞常勤医を配置した事で、外来受診回数は平成26年304回が、平成27年度は274回と10%減少している。

＜リハビリテーション部門＞利用者の姿勢を整えることで、正常な内臓の働きを助け健康の維持を図る姿勢管理に昨年に引き続き、介護職員の指導や、高知家ケアセミナーの講師等を行った。

＜栄養部門＞重度化予防対策として、看護師や介護職員と情報共有して入居者の食欲低下、体重減少、摂食機能低下の早期発見につとめ、食事形態や嗜好の問題、食事環境整備を検討し工夫してきた。食欲低下時であっても好物や間食、栄養補助食品等を活用したり、自分で食事ができるよう自助食器等の提供を行った。

＜介護支援専門員＞「24時間チームケアでの認知症ケアの実践」「医療連携のできる介護施設」「看取りのできる介護施設」として、新たな加算が始まり書類作成と会議が増えたが、全体的に協力して取り組む事ができた。介護現場がケアプラン作成による負担感が軽減できるよう今後、書類の簡素化等に取り組んでいきたい。

＜介護部門＞高知家統一ケアセミナーへの参加や、外部の介護技術研修等に参加し、スキルアップに努めた。施設での最期を迎える看取りの方も増えており、ご家族の方に「この施設で良かった」と思っただけのよう更に研鑽していく必要がある。

●特別養護老人ホーム風花の里

平均稼働率 91.1%(前年 95.75%)、平均介護度 3.7 (前年 3.9)

平均稼働率は前年度より少し下降しており、年間入院日数も 222 日から 441 日と伸びている。健康維持活動として、月に 3 回程度の外出を行った他、近所への散歩や買い物、喫茶店の利用など、地域へ出かける機会を多く持つように努めた。

●グループホーム浦戸の里

稼働率は今期 98.4% (前期 93.9%) と上がっている。平均介護度も前年 1.9 から 2.0 と上がっており、昨年と比較して増収がみられた。

年間入院者は実人員 6 名の 8 件、のべ 77 日で、うち、転倒骨折が 4 件 54 日と一番多かった。今年には部署内での認知症研修を 5 回実施した。

●グループホーム福寿の家

稼働率は前期とほぼ同じ 91.9%、平均介護度は 1.7 と比較のお元気な方が増えている。長期入院が減り、12 件 184 日であった。昨年 12 月頃より新規申込が減少しており、今後更に周辺居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等との連携強化が必要と思われる。

取り組みとしては、ご家族の苗の無償提供もあり畑での野菜作りを行ったり、温泉やドライブ、買い物等の屋外活動も多く取り入れる事ができた。

今後、中追地区の過疎化が進む中、地域密着型施設として、地域の方に対して何か貢献できるように考えていきたい。

●ケアハウス花の郷高知

特定施設 30 床の稼働率は、今期は 91.9% (前期 93.3%) であった。一般の稼働率は 93.4%、全体では 92.7% (前期 94.3%) である。入退去数は特定施設で 8 名、入居時の平均介護度は 2.25、一般の新規入所は 5 名で平均介護度は 1.9 であった。入院件数はのべ 90 人 1483 日と昨年の 1217 日より少し増えている。食事は毎食バイキングが定着しているが、マナーにならないよう、「食 1 グランプリ」を企画し利用者や職員による投票イベントを半年ほど開催した。その他、料理教室は月 2～3 回、ボランティアの方の定期的な訪問もあり実施できている。

又、ケア技術の向上と統一したケアができるよう、高知県現任介護職員等養成支援事業を活用することで、外部研修にのべ 84 名が参加できた。

●ケアハウスあじさいの里

月平均稼働率 86.9% (前年度 91.7%)、平均介護度 1.9 (前年度 2.3)

前期に比べ、入院者が多く、21 件 1014 日であった。平均年齢も 88.6 歳と他の施設よりも高いことから、今後更に健康管理が必要と思われる。ケアの面では、利用者の趣味等に応じて、園芸や編み物クラブを開始、2 月からは音楽療法を開始し好評を得ている。又、春は畑の玉ねぎ堀り、秋はヘリオスの運動会に参加できたが、まだ、利用者のアクティビティに課題が残っている。

◆在宅サービス部門

●ショートステイ森の里（短期入所生活介護）

平均稼働率は74.1%（前年75.2%）であった。61名の新規利用者があった。楽しみのある生活を支援できるよう、園芸や2か月間隔で作品作り（ハンガー・うちわ・エコボックス・キャンドル・干支飾り・ハンカチ染め）に取り組みのべ160人が参加できた。又、理学療法士による個別機能訓練も実施している。

●デイサービス浜ちゃん

稼働率は平成25年度より低下してきていた為、小規模デイならではの取り組みを行った。特に屋外歩行訓練を行い、浜ちゃんロードやゆり街道（ゆりハウスの農道）や花海道等のコースを決めて毎日歩く事を目標にし、浜ちゃんクッキングで料理作りを行い、実施曜日を増やす事もできた。これらの取り組みから、新規利用者は前期3名が今期は10名に伸び、登録者の年間推移も13名から19名となった。しかし、利用者の利用回数が少ない事から稼働率は今期51.1%（前期56.8%）であった。

●デイサービスこだま

稼働率は今期79.8%（前期71.4%）であった。昨年に続き、施設内通貨ZEYOを活用し、生活リハを行い貯め、こだま喫茶（月2回）こだま市を1～3か月に1回開催した他、屋外歩行訓練に取り組み、歩行距離を計測したり、個別プランとして、でこぼこ道や段差、屋外での歩行器訓練などを実施し、ご家族やケアマネに報告を行った。

●デイサービス中追

稼働率は今期22.6%（前期36.9%）で、新規利用者は1名、中止者は5名であった。引き続き厳しい経営状況である。取り組みとしてはグループホーム利用者と一緒に流しそうめんや合同の食事会、さんま焼きの日、餅つき等を実施した。又、中追アート計画として、河原の石ころにペイントをして敷地内に置いたり、木彫り人形を設置した。

1月には中追地区住民13名の方を招待し、食事会を開催し地元の方と交流を持つ事ができた。

●デイサービスセンター夕顔

稼働率の年度内推移は4月59%から、3月に69%と回復することができ、平均稼働率66.1%（前期69.2%）であった。年間新規利用者は昨年5名と減少したが、今期は13名と、一昨年と同等数に回復した。今年は利用者の力が発揮できる取り組みとして、畑の作物を使った収穫祭を毎月催し、野菜作りから料理作りまで楽しめるようにした。また、良心市を開始し、作物の販売や11月にピザ釜を庭に作り、ピザ作りも楽しめるようにした。

●デイサービスセンター森の里

①通所介護

稼働率は今期71.1%（前期76.6%）と減少した。新規利用者は前期28名から今期18名となって

おり、平均介護度は 2.1 であった。前期から取り組んだ施設内通貨 ZEYO 活動も利用者に定着しており、更に利用者が意欲的になれる内容の充実が必要である。

②認知症対応型通所介護

新規利用者は 5 名であったが、中止者は 9 名（死亡や入所が主原因）となり、稼働率は 49.2%（前期 64.1%）となった。平均介護度 3.5（前期 3.2）とより重度の方の利用が多くなっている。

◆ヘルパー部門

●ホームヘルパーステーションよこはま

平成 27 年度の介護保険の改正で、すべての単価が下がった事や、同一建物の利用者は 10%減算になったことで、新規受け入れに対してコースを調整し積極的に受け入れを行った事で、新規契約 46 件、終了 32 件と登録者が 14 件増え 89 件となった。毎月の平均利用者数は「介護」49 名（前期 46.9 名）、「予防」35 名（前期 29.3 名）と要支援の方の登録が増えている。介護給付の利用回数は 1 名当たり月 7.25 回から 9.3 回と増えている。要支援の方は月 4.8 回の利用である。一方、介護保険外サービス（自費ヘルパー）も H25 年は 10 名、H26 年度は 12 名、今期は 16 名と増加しており、生活支援のニーズが多くなってきている。

◆居宅支援・高齢者支援センター

●森の里居宅介護支援事業所

新規利用者今期は 68 名（前期 96 名）であった。終了者は 55 名（前期 63 名）と前期より少ないため、登録者は 11 名増の 228 名である。新規利用者の 42 名（62%）は要介護 1、16 名（24%）は要介護 2 と介護度の軽度の方で 86%を占めている。

●高知市南部地域高齢者支援センターよこはま出張所

高知市南部地域の在宅高齢者を対象に訪問や相談対応、必要なサービス導入に向け関係機関との連絡調整を行っている。月 1 回開催 サロンひぐらし（竹島町）たけのこ会サロン（ヘリオス内）わしお元気会（横浜西谷地区）を開催し、いきいき百歳体操や囲碁将棋の日も中心的に行い、地域での認知症や閉じこもり高齢者等への支援を行った。

◆配食サービス

●風花の里配食サービス

新規申込みが H26 年度より 20 件減少し 76 件、中止は 11 件減少し 42 件であった。登録者数の年間推移は 4 月 131 名から 3 月 139 名と増えてきているが、夏場の減少もあり、年間配食数は高知市 5952 食（平均 496 食・1 日 16 食）、民間 31704 食（平均月 2642 食・1 日 87 食）であり、前期より高知市 10%減、民間 7.8%の減少であった。

3 月には、他の配食事業所の廃止に伴い、新規利用が増加してきている。

●看護小規模多機能居宅介護 生きがいファームはるの

H26年12月25日から春野に開設した事業所である。新規利用者は13名であったが、中止者も8名であり、25名の定員に対し登録者は13.3名、稼働率は53.2%（前期34.7%）である。利用者の平均介護度は2.3（前期2.0）と軽度が多く、今後更に、病院からの退院者を積極的に受け入れるよう、医療機関との連携が必要である。

●定期巡回随時対応型訪問介護看護つなぐ

新規16名、中止は12名であった。新規利用者の69%が要介護1・2の軽度の方であったため、収入に大きな影響があった。病院からの中重度の利用者紹介が得られるよう、医療連携室やケアマネージャーとの連携が更に必要である。記録に関しては、KCISシステムを導入しデジタル化を行っている為、記録の簡素化と看護や介護職員の情報の共有が図れている。

●訪問看護ステーションさえざり

新規利用者17名の内訳として8名が介護保険、9名が医療保険対象であった。中止者11名では3名が介護保険、8名が医療保険であった。中止理由は死亡が46%であるが、軽快の方も36%いた。新規の紹介元は森の里居宅が3件、もみのき病院から4件、他の居宅から5件、他の病院から5件であった。